

カラスガレイ オホーツク公海

Greenland Halibut, *Reinhardtius hippoglossoides*



管理・関係機関

水産庁
水産研究・教育機構

最近の動き

2015 年漁期は、底刺網漁船 2 隻が本資源を対象とする操業を行った。

生物学的特性

- 体長・体重：1 m・45 kg
- 寿命：10 歳以上
- 成熟開始年齢：5～7 歳
- 産卵期・産卵場：秋～冬、オホーツク海
- 索餌場：オホーツク海
- 食性：スケトウダラなどの魚類及びイカ類
- 捕食者：シャチなど

利用・用途

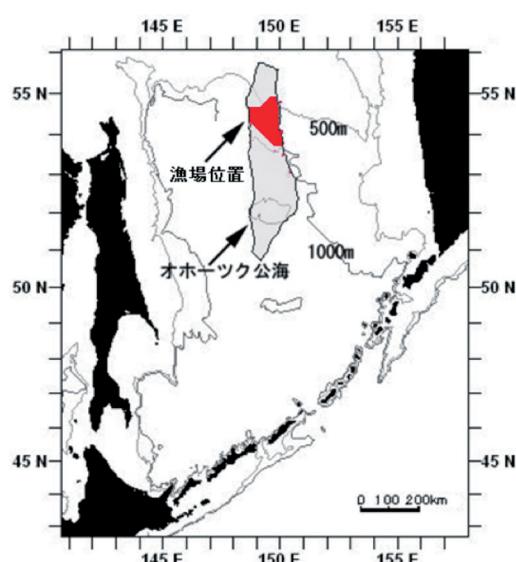
切り身や寿司ネタなどの惣菜用として利用される。

漁業の特徴

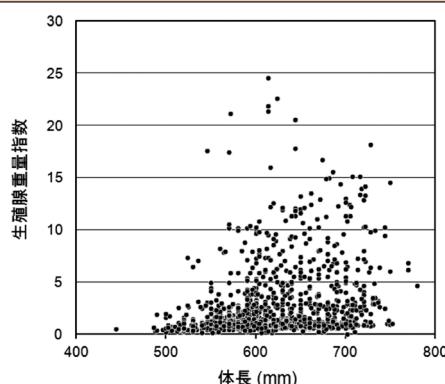
オホーツク公海はロシア水域に囲まれ、本資源は周辺のロシア水域大陸棚資源と連続すると考えられる。1980 年代半ばに、北海道漁船（知事許可船）が本資源を対象に公海で底刺網の試験操業を開始し、まもなく本格操業に移行した。1992 年以降、公海での操業と並行してロシア水域での操業が行われたが、2001 年以降はロシア水域での操業は許可されておらず、公海のみの操業となっている。本資源の漁業は、2000 年度に北海道知事許可漁業から大臣承認漁業に移行し、さらに 2007 年度に特定大臣許可漁業となった。海水が発達する 12～4 月は休漁としている。漁業開始時の 1980 年代には 5～6 隻が出漁し、使用網数は 1,600 百～2,400 百反程度であったが、操業隻数の減少とともに網数は減少し、2000 年代半ば以降は 100 百～400 百反程度となった。直近の 2015 年は、4～11 月の漁期中に 2 隻が操業し、網数は 524 百反であった。なお、本資源を対象とした他の国々の漁業はない。

漁獲の動向

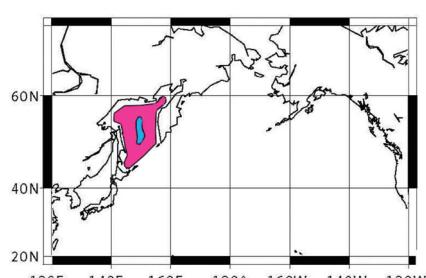
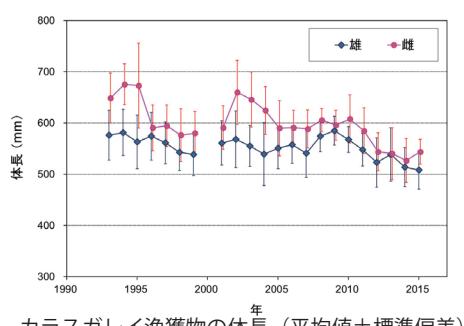
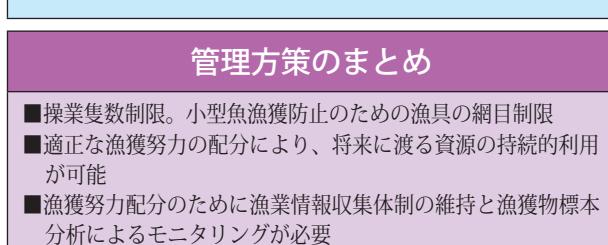
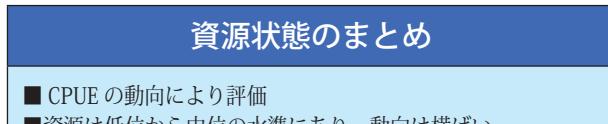
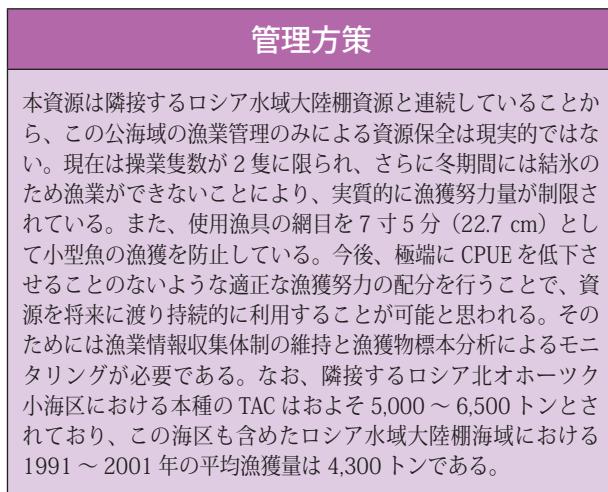
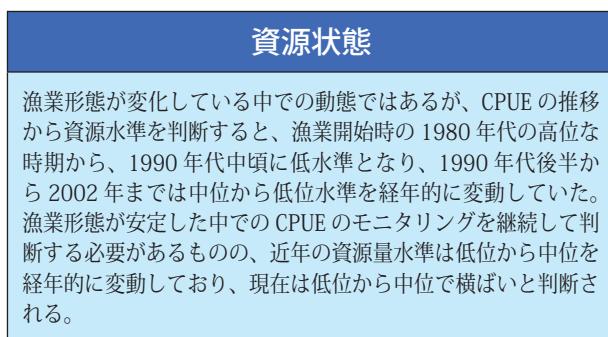
1980 年代の漁業開始時の漁獲量は 4,000 トンを超え、CPUE（刺網 1 反当たり漁獲量）も 20～30 kg/ 反程度の高い値を示していたが、1990 年代中頃に漁獲量は 13～767 トン、CPUE は 3.1～8.8 kg/ 反の低水準に落ち込んだ。1992 年以降 2000 年まで、漁獲努力の一部がロシア水域に向けられていたことが、漁獲量の減少をもたらした一面はあるが、CPUE の経年的な変動は 1990 年代中頃の資源水準が低かった可能性を示している。公海操業のみとなった 2001 年以降では、漁獲量は 119～1,672 トン、CPUE は 6.3～22.1 kg/ 反で推移した。直近の 2015 年の漁獲量は 479 トンで、2014 年（450 トン）と同程度であった。CPUE は 9.1 kg/ 反であり、漁業開始時と比較して低位から中位水準であった。



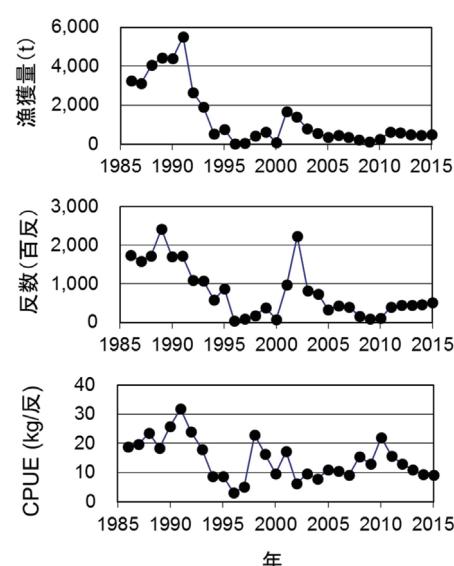
オホーツク公海における近年の漁場位置



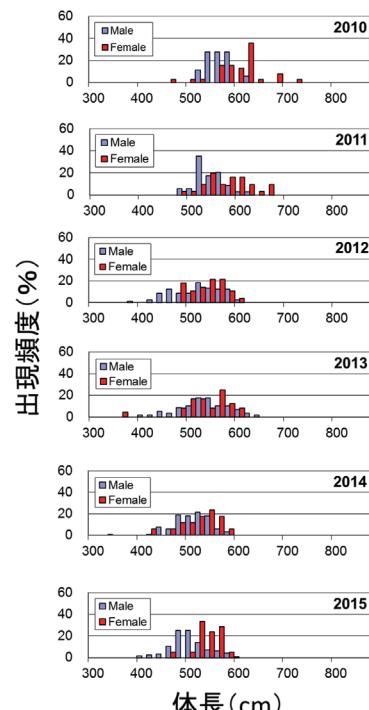
カラスガレイ（雌）の生殖腺重量指数



オホーツク海カラスガレイ分布域（赤）及び漁場（青）



オホーツク公海におけるカラスガレイ漁獲量（上図）、努力量（中図）及び CPUE（下図）



カラスガレイ（オホーツク公海）の資源の現況（要約表）

資源水準	低位から中位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量（最近 5 年間）	オホーツク公海における他の漁獲は確認されていない
我が国の漁獲量（最近 5 年間）	450 ~ 628 トン 最近（2015）年：479 トン 平均：531 トン（2011 ~ 2015 年）
最新の資源評価年	—
次回の資源評価年	—